

地業工事

砂利・割り・捨てコンクリート地業

Table with 4 columns: 地業名, 仕上り厚さ, 施工範囲, 備考. Rows include 砂利地業, 割り地業, 捨てコンクリート地業.

- 捨てコンクリートの盛土基準値は 135kg/m<sup>2</sup> とする。
○ 直接基礎部分の地耐力(長期) (50 t/m<sup>2</sup>)

既製コンクリートぐい地業・鋼ぐい地業

Table with 5 columns: ぐい種別, ぐい径・サイズ, ぐい先端位置, 耐力(長期)1/本, 備考.

- ぐいの設置工法 ( )
○ 鋼ぐいのぐい長は ( ) とする。
○ ぐいの処理及びぐいの補強方法は ( ) に示す。
○ ぐい先端部は 閉そく平たん形を標準とする。

場所打ちコンクリートぐい地業・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁地業

Table with 5 columns: ぐい寸法・形状, 掘削深さ, 耐力(長期)1/本, 備考. Rows include PI2, PI2a, PI4.

- 工法 (深礎工法)
○ 施工に際しては 原則として 施工管理技術者をおかなければならない。
○ コンクリート (種類, 盛土, 設計基準強度, 最小セメント量, 所要スランプ)
○ 鉄筋コンクリート用材料・鋼材の品質 (主筋 SD35, 筋 SD30, 片筋 SS41)
○ ぐいの処理・鋼ぐいと地中の接合は ( ) に示す。

施工試験

- 支持地盤の軟弱試験
○ 地盤の軟弱試験 ( ) に示す1箇所を行い、地耐力 50 t/m<sup>2</sup>(長期)を把握する。
○ その際試験計画書を提出し、監督員の承認を受けること。
○ また予想最大荷重は 設計地耐力の3倍とする。

鉄筋コンクリート工事

コンクリート

Table with 8 columns: 種類, 使用区分, 設計基準強度, 所要水灰比, 所要スランプ, 所要空気量, レディミクストコンクリート, 備考.

- コンクリート番号(1,2)は 該当使用区分での化材打放しコンクリートにも適用する。
○ 選材
○ コンクリート番号(1,2)には AE減水剤を使用する。
○ コンクリート番号(2)には 流動化剤を使用する。
○ 細骨材の塩分含有率 0.04%以下を原則とする。
○ コンクリート番号(1,2)は ためし練り試験を行う。

鉄筋 JIS規格品とする。

Table with 4 columns: 呼び名, 品質, 継手工法, 備考. Rows include D10~D16, D19~D25.

Table with 4 columns: 材料試験, 試験鉄筋径(呼び名), 試験片本数, 回数, 備考. Rows include 単位重量試験, 引張試験, 曲げ試験, 圧接性試験.

- 構造試験
○ ガス田施工 JIS Z 3881 による (1, 2)種 有資格者とする。
○ 田施工の技量検定付加試験 ( ) (無)
○ 鋼筋の加工寸法・形状・かぶり厚さ及び 鋼筋の継手位置・継手の重ね長さ、定置長さは「標準配筋図(1),(2)」に示す。

型枠

- コンクリート打設時
○ 化材打放し面の型枠は 化材打放しコンクリート ( ) に示す試験片とする。

コンクリート打設に際し、その品質及び施工の管理のため、主任技術者は必ず立ち会い管理しなければならない。

鉄骨工事

鋼材 JIS規格品とする。

Table with 3 columns: 品質, 使用鋼材の名称, 備考. Rows include SS41, SM50A, STK41.

Table with 2 columns: 種別, 備考. Row includes 19φ H=80.

Table with 3 columns: 品質, 使用サイズ, 備考. Row includes SS41 M22.

Table with 5 columns: 名称, セットの種類, ボルトの機械的性質, 使用サイズ, 備考. Rows include JIS系高力ボルト, JSS系高力ボルト.

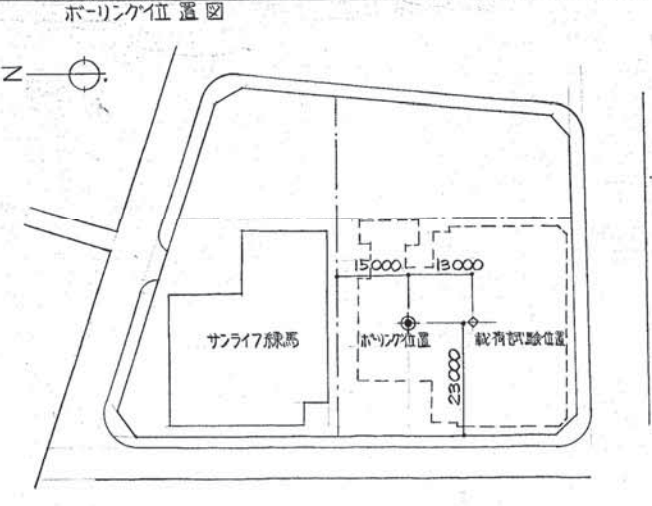
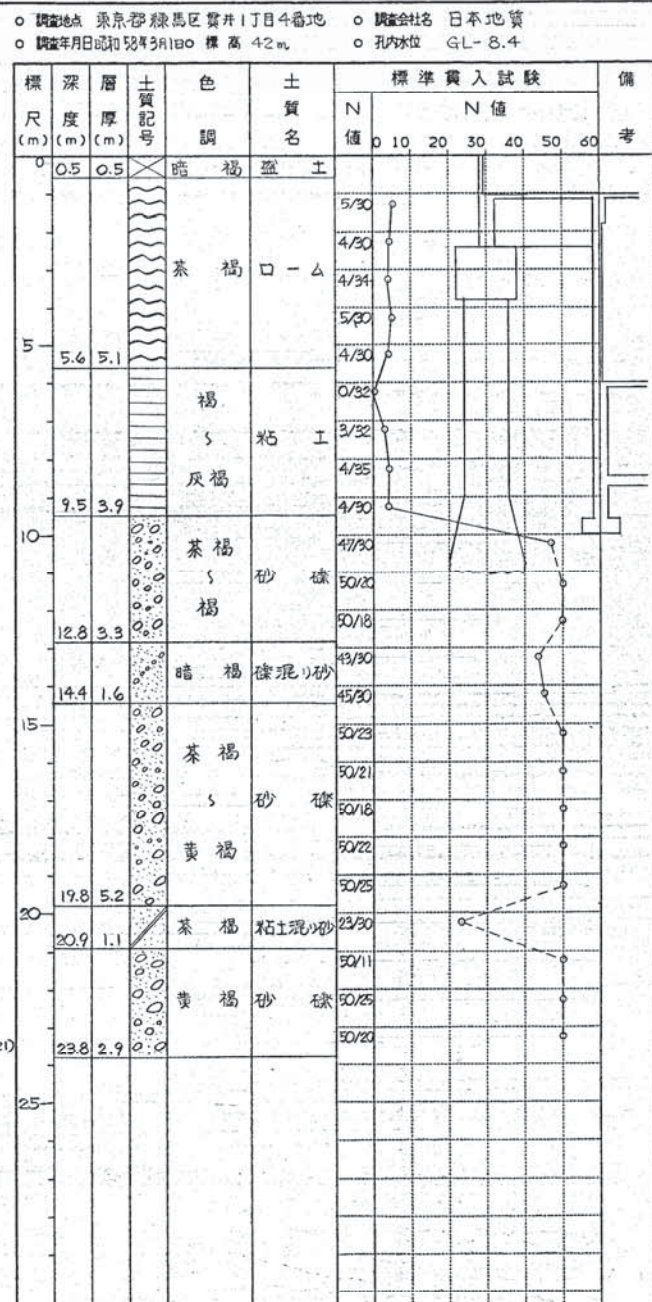
- 高力ボルトの製造検査は JIS B 1186 の規定により行う。
○ 鋼材の処理は すべて保護塗膜が、0.45以上となるように行う。
○ 鋼材のすべり保護塗膜は 現場での施工条件に適合する試験片で行う。

Table with 4 columns: 種別, 試験片材の品質, 試験材の数, 備考. Rows include A種, B種, C種.

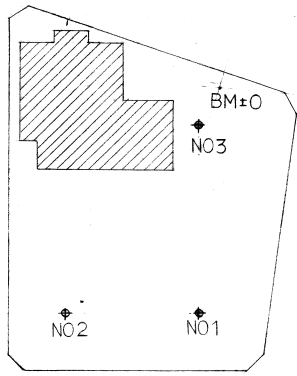
- 防錆塗装 (有・無)
○ 防錆塗装は 工場塗装とし、素地ごしらえ (3種), 錆止め塗膜は JIS K 15621, 2回塗りとする。
○ 高力ボルト接合部及び 現場溶接部の防錆塗装は 上記と同等の性能となるよう施工すること。
○ 上記防錆塗装で無の場合でも、設備配管用スリーブの内面には 工場塗装を行う。
○ 塗装範囲

- 溶接部の検査
I 検査は 検査員による。
II 検査は 検査員による。
III 検査は 検査員による。

土質柱状図



本特記仕様は 標準仕様書における特記事項であり、各章の一般的な規定に優先する。



ボーリング番号	No. 2
調査名	（仮称）区内ビルの調査地盤調査
所在地	東京都港区赤坂一丁目
調査年月日	昭和51年 2月 7日 ~ 昭和51年 2月 10日
標高	+0.210 m 基準 調査位置参照
ボーリング工法	ロータリー式

ボーリング番号	No. 3
調査名	（仮称）区内ビルの調査地盤調査
所在地	東京都港区赤坂一丁目
調査年月日	昭和51年 2月 11日 ~ 昭和51年 2月 12日
標高	-0.100 m 基準 調査位置参照
ボーリング工法	ロータリー式

ボーリング番号	No. 4
調査名	（仮称）区内ビルの調査地盤調査
所在地	東京都港区赤坂一丁目
調査年月日	昭和51年 2月 11日 ~ 昭和51年 2月 12日
標高	-0.100 m 基準 調査位置参照
ボーリング工法	ロータリー式

